

第1回 海洋スクール

熊本県青少年育成アドバイザー(連) 会長 鶴田 功

天草の中学生60名が海洋調査実習船に乗り込んで海洋環境を体験学習するために種子島へ向かった。有明海の洋上では、プランクトン採取、海水の透明度調査、水圧実験などを体験した。鉄砲伝来450年に当たりポルトガルとの歴史がある本市と共通点の種子島では鉄砲伝来記念館や宇宙開発センターなどを見学。



東海大学海洋調査船



ロケット基地見学



海洋調査

第2回 海洋スクール

下天草沿岸の環境調査をしながら島を一周。九大の野島教授による海洋生物の生態についても研修した。



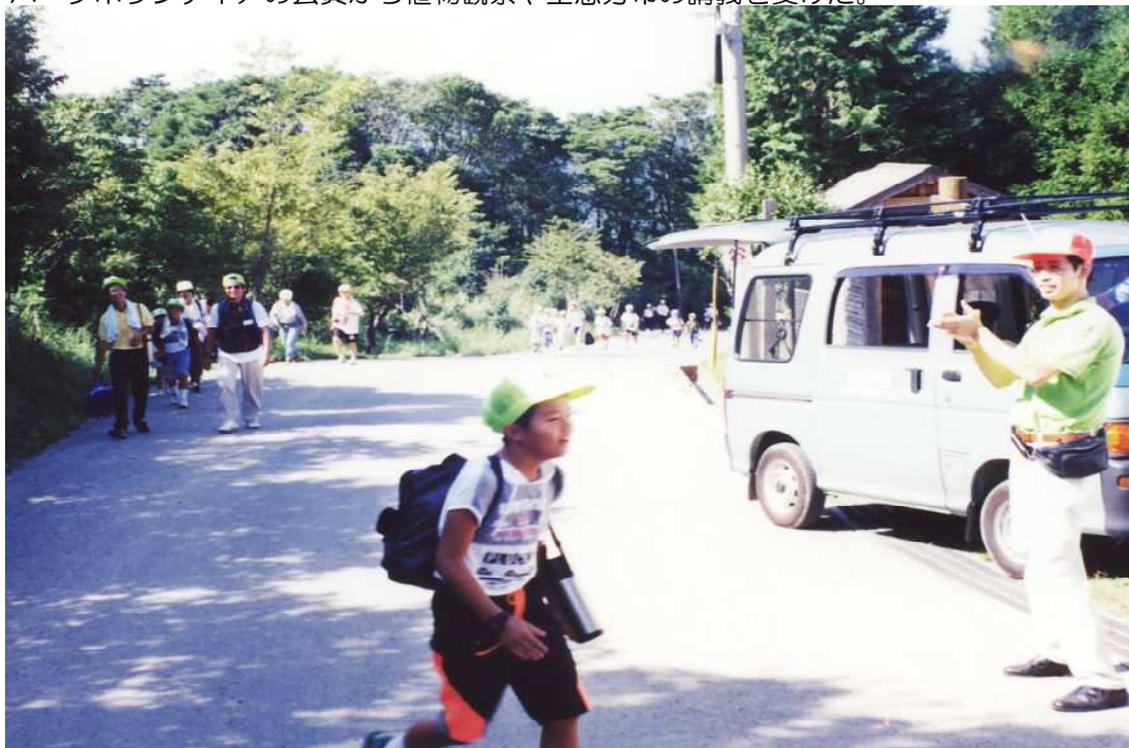
水産加工場見学



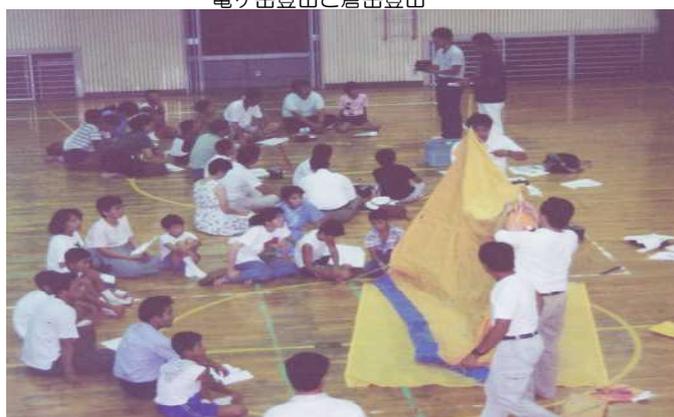
海洋生物の生態について

24時間親子体感ウォーク

小学生30名が親子で竜ヶ岳天文台で星座観察、キャンプを楽しんだ。前日の竜ヶ岳登山に続いて早朝朝5時より天草の最高峰の倉岳（682m）登山に挑戦。体を鍛え、忍耐力を養うのが目的である。道中、パークボランティアの会員から植物観察や生態分布の講義を受けた。



竜ヶ岳登山と倉岳登山



テントの張り講習



海上タクシーで移動

「ハートフルポセット運動」

「世界の子どもたち」について学ぶ

子どもたちに「スモークマウンテンの子どもたち」というNHKのビデオ番組を見せた。フィリピンの「スモークマウンテン」と呼ばれるゴミ捨て場は、文字通り、発酵したゴミから煙が立ち上り、強い異臭とメタンガスが目にしみる。

ここで暮らす子どもたちは、学校へも行かず、裸足で金目になるゴミを拾い、そこで得た僅かな収入で、その日に食べるパンを買っている。

経済的に恵まれた日本の子どもたちは、私たちにできることはないかと話し合い、使っていない学用品や日用品を持ち寄りポセットに詰めて贈ることにした。

参加した子どもたちは、他の子にも呼びかけた。新聞や伝え聞いた他県の子どもたちや保護者からも続々と「愛のポセット」が1、2トンも届いた。

思い掛けない反響に、スタッフは有志を募り、直接フィリピンの子どもたちに届けようと、航空荷物で運んだが、税関で中間搾取事件があり、手渡さなければ宛先に届かない現実を見た。

また、ポセットを買った子どもが直ぐさま古物商で換金している姿に愕然とした。日用品や学用品より、今日食べるパンが必要なのだ。古物商は、日本製品を入手してニンマリ。

支援活動の難しさを痛感させられた。



寄せられた支援物資



スモークマウンテン



明るいフィリピンの子どもたち



プレゼントを開いて喜ぶ子どもたち

「縄文杉の屋久島登山」

早朝5時起床「縄文杉」を目指して登山開始。長いトロッコ道や急斜面の山道を6時間かけてひたすら歩き、やっと目的の縄文杉にたどり着いた。小学5・6年生20組の親子とスタッフ。スタッフは1ヶ月前に現地調査入り、安全対策について万全の点検確認、当日に備えた。往復12時間の登山にもかかわらず、子どもたちは元気にはしゃぎ回る。親はクタクタ！！



早朝5時出発



トロッコ道



屋久島自然博物館



縄文杉



千尋の滝

国際交流事業

ドイツのハイデルベルグハイスクールのハンドボール部員38名と天草高校生・天草工業高校生が天高研修会館セミナリオに合宿して討論会やハンドボール親善試合をした。交流会では、天草太鼓の披露や海水浴・バーベキューなどを楽しんだ

青少年国際交流事業会会長 鶴田 功

天草ふれあい塾

小学生の親子が田植えから収穫まで稲作体験を通して自然に親しみ農業の大変さや勤労の貴さを学ぶ。田植え、案山子作り、稲刈り、脱穀を体験。精米したお米は無人島キャンプで食べた。寺子屋体験学習では座禅を体験。アズレージョ（陶板）を制作二も挑戦し防波堤の壁面へ設置した。



体験活動 稲作体験



無人島キャンプ



主催者あいさつ



田植え体験



座禅の体験

「国際交流事業（タイ）」 タイの小中学校の朝礼

タイ東部のウドンターニー県は首都バンコクから560キロ離れ、経済発展から取り残された地域である。

訪れた学校「バーンノウエン小中学校」は、幼稚園から中学校までの子どもと一緒に学び、比較的経済的に恵まれた家庭の子どもたちだけが通っている。家が貧しくて学校へ行けない子どもがいるが、給食だけは食べに来ている。

参加した日本の子どもたちは、ホームステイしながら4泊6日でタイの家族と交流を深めた。バーンノウエンでは、貧しかった戦後の日本の暮らし同然で、今なお部屋には1個の裸電球があるだけで、電気製品がある家庭は少ない。

しかし、大方のタイ国民は、熱心な仏教徒で貧しいながらも感謝や相手を思いやる心優しい国民である。優しく微笑みながら手を合わせて「サワディカップ」とあいさつする人々の眼差しは、仏の姿そのものだ。

鶏舎を建て、孵卵器と育雛箱を設置する「養鶏プロジェクト」で、日本とタイの子どもたちが共同作業をした。大人顔負けの働き振りに驚かされた。

タイの子どもたちは、家庭の一員として、幼い頃から家事労働を手伝っている。そのせいか、生活力があり、たくましい。

タイの子どもたちは、将来に大きい夢を持っている。なりたい職業はとの質問に「政治家、教師、医者、警官」どの子も「親に楽をさせたい」という。日本の子どもは「まだ、わからない」という。自立できない「親のスネかじり」に日本の将来を託せるのか心許ない。



バーンノウエン小中学校の朝礼 釈迦に合掌・国旗掲揚



養鶏プロジェクト 鶏舎の編み張り作業 ヒヨコにワクチン注射



飲料水は雨水タンクの水



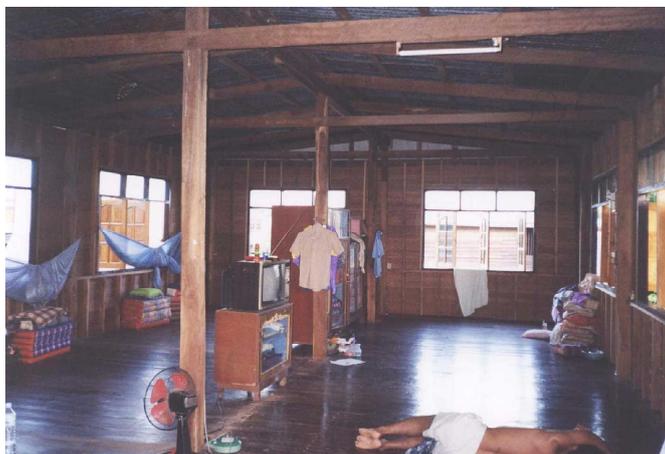
カメの中にはボウフラがうごめいている



食文化交流 日本のカレー（600食）



ホームステイ先の民家



二階が居間兼寝室



行水・洗面・トイレに使う水ガメ

「天草よかところ見つけ隊」

子どもの主体性を育てる事業として、「天草よかところ見つけ隊」を実施した。5班に分かれ天草のパンフレット見ながら、天草のよかところ（素敵なところ）を探す旅をした。「どこで、何をするか」、役割分担（食事係、写真記録係、発表係）は、班ごとにチームで話し合って決めた。スタッフは、もっぱら安全面の注意と会計を担当し、サポート役に徹したが、子どもたちの生き生きとした表情をみた。「子どもにまかせて、させてみるもんだ」事後研修では、印象に残ったことをみんなで広用紙に書いて、班ごとに発表する「天草子どもフォーラム」を開いた。僕たちの班は「イルカウォッチング」をしたよ。子どもイルカがお母さんといっしょに楽しそうに泳いでいたヨ。九大天草臨海研究所の野島哲先生からは、サンゴや水中生物のお話を聞いたヨ。豊富な魚貝類に恵まれた天草の海が、地球温暖化で異変がおきているんだって…。美しい自然をたいせつにしたいと思います。



班別に旅行計画を発表



出発式 主催者あいさつ



いよいよ旅の始まり



水中生物の観察



事後研修



陶芸絵付け体験

「無人島キャンプ」

天草には大小120あまりの島があります。私たちは無人島「黒島」でキャンプをしました。便利な生活用品は持ち込み禁止なので、古代の火おこしで火種をつくり、飯ごうを使いました。飯ごうでご飯を炊くのは始めてなので、リーダーに炊き方を習いました。私たちの班は、火が強すぎて吹きこぼれたので少し焦げていました。魚を釣り貝類を捨てておかずをしました。竹で食器や箸を作りました。ノコギリやナイフを使ったことがないので、作り方を教わりながら、箸を作っていたらナイフで手を切って血がでました。スタッフのおじさんが「大丈夫、海水で洗いなさい」と言って海水に浸けたらしみて痛かった。でも傷はすぐに治りました。電気もなくテレビも見られないし、ゲームもできないので何をしたらよいのか分からずに困りました。すると5班の班長が「島のまわりのゴミ拾いをしよう」と言ったので、みんなで漂着ゴミを拾うことにした。ビニール袋に35個も拾いました。韓国語や中国語が印刷された容器もあった。町役場の人「ありがとう。後から来た人もきっと喜ぶよ」と言っていました。美しい天草を大切にしたいと思いました。夕方になって、電灯もないので少し不安になって、早く家に帰りたかった。何も無いところで生活してみて、始めて物の大切さを感じました。これからはもっと物を大切にしようと思います。

(感想文より)



テントが張れたよ



古式火熾し



カニがいたよ



飯ごう炊さん



ご飯が炊けたよ



カレーの夕ご飯

「ツールド・天草」

自転車でのツーリングで、忍耐力と助け合いの心を育てる1泊2日のハードな事業だ。パートⅠでは本渡から新和町・河浦町・天草町・苓北町・五和町を2日かけて、120Km駆け抜けた。「きつい、家に帰りたい」と泣く子は、チームで支え合い、完走した。



ツールド天草



フィニッシュのハイタッチ



主催者あいさつ



パンク修理

「ツールド・天草Ⅱ」

パートⅡでは、天草四郎ゆかりの地を訪ねて、有明をスタート本渡・五和町鬼池港から口之津町・島原町から船で三角に渡り、大矢野町・松島町・有明町をゴールに2日間で170kmを走覇した。落伍した子どもには、チームで励まし声援を送った。



ツールド天草Ⅱ



普賢岳をバックに



主催者あいさつ



安全運転

「ツールド・天草Ⅲ」

パートⅢでは、本渡から栖本町・倉岳町・姫戸町・松島町・竜ヶ岳町から本渡へのルートである。フィニッシュ地点で出迎えた保護者は、「よく頑張ったネ」と涙を拭いながら抱き合っていた。子どもたちは、過酷で辛くてもやり遂げた満足感で、ひとまわり大きく逞しく感じた。



ツールド天草Ⅲ



走行上の注意



安全運転



地引き網体験



頑張ったよ

「あまくさツーリズムin御所浦島」

御所浦町の漁村で民泊しながら、恐竜の化石発掘や地域の人々とのふれあい体験をしようと、青少年育成事業実行委員会が開催した。



御所浦島で民宿しながら研修



生け簀イカダ



恐竜の島：御所浦



地引き網体験



ホームステイでの夕食



海鮮バーベキュー



御所浦与一ヶ浦ホームステイ